



多治見市立平和中学校

●住所 〒507-0826 多治見市脇之島町1丁目1番地
 ●TEL (0572)22-7265
 ●FAX (0572)21-2120
 ●メール j-heiwa@city.tajimi.lg.jp
 ●生徒数 152名

【たじみしりつへいわちゅうがっこう】

学校の教育目標 自立と社会貢献

学校の教育目標

学校の教育目標は「自立と社会貢献」です。深く考え、正しく判断し、たくましく行動する生徒の育成を大切にしています。自立に向け、社会性(規範意識・向上心・創造性・人間関係)を高めることを目指しています。

- ◇自分を磨く(規範意識の醸成)
- ◇仲間と磨きあう
- ◇向上心、問題解決能力の向上
- ◇社会で磨きをかける(人との関わり、関係の構築)



▲日本最高気温

本校は、昭和二十二年に「多治見市立平和中学校」として創立されました。学校は多治見市の南に位置し、校舎は豊かな山の木々に囲まれた静かな場所に建っています。

二〇〇七年八月十六日には、日本国内の最高気温記録(当時)となる四十・九度を観測しています。

沿革・地域の自然や風土

平和学習

本校では、修学旅行において平和学習を行っています。戦争は、生徒にとってテレビや本でしか知らない遠い過去のことですが、真実を知ってこそ、校名の「平和」の名前の重みが分かるのではないかと考え、平成十二年度から広島市を訪問しています。

事前学習は、四月から始まります。「総合的な学習の時間」や教科の授業の中で、過去の戦争のことや戦争中の生活について調べたり、千羽鶴を折ったりすることを通して大まかなイメージを持ち、広島市を訪れます。



▲平和学習

当日は、広島被爆者援護会の語り部の方に説明をしていただきながら、碑めぐりや原爆資料館の見学を行います。事前学習をしている生徒たちも、語り部の方から戦争や原子爆弾投下の時の様子などについて直接聞くと、次第に口数が少なくなり、その頃に思いを馳せる姿が毎年見られます。

その後は、語り部の方たちへの感謝の気持ちも込めて、毎年平和祈念合唱を行っています。平成十九年からは、原爆の惨禍からよみがえった被爆ピアノの伴奏で、「HEIWAの鐘」などを披露しています。広島という地に立つて歌う合唱は、生徒の心を揺さぶり、感極まりながら歌う生徒もいます。そんな貴重な体験ができる修学旅行だからこそ、戻ってくる「本当」に行つて、たくさんの方を学ぶことができた。」と多くの生徒が口をそろえて言っています。これからも本校で大切にしていきたいことのひとつとなっています。



▲花火大会翌朝清掃

ちは生き生きとした表情で取り組んでいます。本校には、特色のあるボランティア活動がいくつもあります。

毎年行われている「多治見市花火大会」の翌日には、朝六時に近くの公園へ生徒・保護者・教職員が集まり、土岐川周辺のゴミ拾いを行います。前夜に打ち上げられた花火の破片がたくさん落ちていますが、生徒たちの手によつてきれいに片付けられます。前夜の花火の美しさとはまた違った清々しい清掃風景です。

また、例年十二月には、平和中学校区にお住まいの「独居老人」の方の家を三年生の生徒たちが

ボランティア活動を通しての社会貢献

訪問し、「大掃除のお手伝い」を行っています。「手の届かない場所や重い物を動かしての掃除など、とても助かっています。」と毎年とても喜んで頂いています。

校内でのボランティアには、「プチ・ボラ」という活動があり



▲プチ・ボラ(花の苗植え)

ます。昼休みなど、わずかな時間を利用して行うボランティア活動です。主に花壇の花の植え替えや学校内の清掃作業を行います。花の苗植えを実施するための呼びかけに、二〇〇名ほどの生徒が集まります。さすがに生徒のパワーは力強く、七〇〇株ほどの苗を昼休み時間内に植え替えることができました。

PTA活動から生まれる親子の絆

毎年九月の第二土曜日に、PTA行事の一つとして「親子奉仕作業」を実施しています。作業



▲親子奉仕作業



▲親子奉仕作業かき氷

残暑厳しい中での作業になりますが、終了後にPTA役員の方から「かき氷」が振る舞われ、生徒たちはもちろん大人たちも大喜びです。

体育祭PTA種目
「親子対抗綱引き」

体育祭種目の中に「親子対抗綱引き」があります。五年前から実施されています。競技はエキシビジョンとして行い、「保護者対各学年生徒」が力を競い合っています。

今年度の結果は三学年とも、保護者チームの圧勝でした。競技は大変に盛り上がり、生徒も保護者も笑顔いっぱい、とても爽やかなひとときになりました。



▲親子対抗綱引き

校歌

平和中学校校歌

作詞 各務 虎雄
 作曲 米田 天海

一、姿けだかき 平和富士
 木々のこずえのみどり濃く
 とわの栄えの色深し
 進みゆく世にさきかけて
 大空高く照りわたる
 郷土の文化 われら築かん

二、陶の都の朝風に
 土岐の流れは青白く
 清き光をたたえたり
 七つの海の波わけて
 もたらず富の限りなく
 郷土の幸をわれらひらかん